

株式会社コンセント Dropbox を共有と作業のスペースに

社外からのアクセスやパートナー企業との迅速なファイル共有が可能になったことで、業務の効率化を実現



「プロジェクトに関わっているとデータ量が多いので、Dropbox Business をオンラインのストレージとして、またデスクトップ的に使う作業場とバックアップ用の保管庫として、と複数の役割で使っています。」



アートディレクター 佐藤 通洋 氏

抱えていた課題

悩みの種だったアクセス制限とファイル管理

株式会社コンセントは、100名を超えるデザイナーを擁する日本最大規模のデザイン会社です。1973年の設立以降、日本におけるエディトリアルデザインの草分けとして多くの商業誌の立ち上げに携わり、また「モノ（＝成果物）」だけでなく「コト（体験・しくみ）」のデザインで、長く良い関係を企業と消費者との間に築いていくというコンセプトのもと、コミュニケーションツールの制作、Webガバナンス支援、商品開発支援、サービスデザインなど幅広く問題解決に取り組んでいます。

コンセントではDropbox Businessを導入する前、自社でファイルサーバーを運用していました。

「セキュリティの関係上、自社のファイルサーバーにアクセスするためには、社内で作業をするほかありませんでした。クライアントにもデザインプロセスの中に一緒に入ってもらおうコンセントのスタイルでは、外からアクセスできないことは大きな問題でした」とコンセントのアートディレクター、佐藤通洋氏は語ります。

Dropbox 導入の主な効果



共有設定をすぐに変えられるので、パートナー企業とのファイル共有を迅速化



各自でアップロードや保存をしていたため散乱していたファイルを Dropbox Business に一元化



アクセスや容量の制限がないため、社内外での作業場やファイルの保存場所として活用し共同作業を効率化

ファイルのやり取りにはサーバーに保存したり、ファイル転送サービスやFTPサーバーを使ったりしていました。そのため、どこに最新のファイルがあるのか、誰がそこにアップロードしたのかを把握するのに多大な労力がかかり、プロジェクトを共に進めるパートナー企業にとっても負担になっていました。実際にメールでやり取りしている中でデータの送付漏れが起きてしまうことも。そこで同社では、個人用の Dropbox を使うことにしました。これによりファイルの散乱は防げるようになりましたが、今度は容量不足に悩まされるようになります。

「容量が足りなくなってきたからファイルを削ってほしいと言われても、進行中の案件だったり、突然データが必要になることもあります。どのファイルを消去していいのか判断するのがとても大変でした。」(佐藤氏)

ソリューション

容量無制限の安心感とトレーニングいらずの簡単さ

Dropbox は操作が簡単で、OS と同じ感覚でファイルを扱えるので、導入後は共有方法や権限、ディレクトリに関して上司から部下への指導があった以外は操作ガイドを確認する程度で、会社全体でのトレーニングは

必要なかったと佐藤氏は語ります。導入時の社員数は 150 名ほど。個人アカウントの容量が不足していた人から順に Dropbox Business に移行し、今ではほとんどの社員が移行を完了しています。

「Dropbox Business を導入してからは、容量が無制限になり気にせず使えるようになったので、気持ちが軽くなりました。」(佐藤氏)

また、これまでファイルを共有する際は、システム部に逐一サーバー側の設定を依頼していましたが、今では各自で共有したい相手に招待メールを送るだけで済むようになりました。「招待メールを出すと相手も積極的に Dropbox のアプリをインストールしてくれるんです。パートナー企業と作業する際は重宝しています。わざわざシステム部に依頼しなくても各自で設定ができるので、その分作業に没頭できます。」(佐藤氏)

結果

容量だけでなく、作業スペースとしても活用

Dropbox Business を導入したことにより、ファイルが散乱していた問題は解決されました。どこに最新のファイルがあるのかも分かるようになっ

たので探す手間も省け、必要な作業により時間を割けるようになりました。

また、Dropbox Business は 30 万以上のアプリに対応しています。佐藤氏は、その中の1つである「Marvel」を連動させ、ウェブサイトプレビューしながら UI やリンクなどの動作を検証するといった、プロトタイプを Dropbox Business 上でシームレスに行っています。作業する際に扱うデータの量が、ローカルの容量よりも大きい場合でも、Dropbox Business を使えば容量についての心配がありません。

「最初はローカルにあるファイルがそのまま Dropbox 上にも存在するという概念で使っていた人も多いはずですが、今やその概念を Dropbox は超えていると思います」と語るのは同社の代表取締役でインフォメーション アーキテクトの長谷川敦士氏です。

「たとえば人と会食する際、実はこんな話があって...といいながら Dropbox からファイルを探してこの内容でどうですか、とプレビューを見せる。どんな状況やデバイスでも、そういうことができるのは Dropbox のメリットだと思います。」(長谷川氏)

活用事例

Dropbox Business の主な 3 つの効果

ファイル共有	各自でアップロードしていたため、散乱しがちだったファイルを Dropbox Business に集積、最新のファイルも見つけやすくなりました。
パートナー企業とのファイル共有の迅速化	自社サーバーで外部とファイルのやり取りをするにあたり、システム部に依頼してファイル共有の実現に 1～2 日かかっていたものが、Dropbox Business の招待メールを送るだけで済むようになりました。
モバイルワーク	どこからでもファイルへのアクセスが可能になったため、社外で行うクライアントとのやり取りもスムーズになりました。

「OS とコラボレーションするファイル管理といった新しい領域にここまで先行して進化できているのは Dropbox だけだと思います。Dropbox はファイル管理というところから始まり、コミュニケーションのためのビジネス プラットフォームとして位置づけられるものに今後も引き続きなっていくと期待しています。」



代表取締役 / インフォメーション アーキテクト 長谷川 敦士 氏

